

# 集団の中で自信をもって、のびのびと行動する子

出 脇 典 子

## はじめに

M子は小学校時代、友だちとの関係がうまくいかないことがきっかけとなって登校をいやがるようになり、母親が学校まで送り、担任が玄関で迎えるという生活を続けてきた。学校では障害児学級の友だちとは仲よくし、安定した生活ができるが、それ以外の場ではほとんど友だちや先生との関わりがもてず、学習にも参加できないことが多かった。こうしたM子が養護学校に入学し、教師集団の受容的態度に支えられながら新しい経験をする楽しさや、自分の力が認められる喜びを通して友だちとの関わりを広げ、楽しんで登校するようになった経過を述べてみたい。

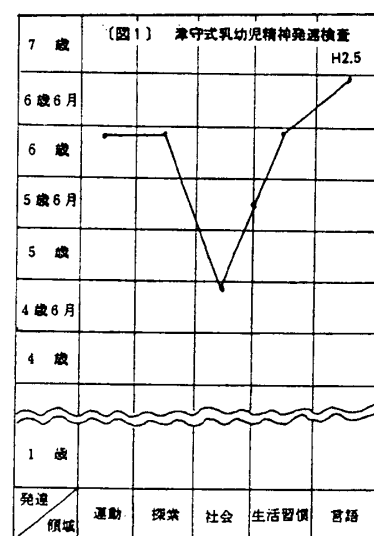
## 1. プロフィール

### (1) 生育歴、家庭環境

- ・昭和53年3月2日生 12歳8か月 中学1年 女子
- ・2年保育の後、市内S小学校普通学級へ入学。2年より心障児学級へ。4年の時友だち関係につまづき普通学級に入るが、ここでもうまくいかず登校をいやがるようになる。この頃より母親が同行しての通学が始まり、制服を着ることもいやがり出す。5年で再び心障児学級に入り徐々に安定してくるが、学級以外の場では、ほとんど人との関わりがもてない。卒業後本校中学部に入学し、現在に至る。
- ・家族は両親と妹（小5）。父は、長距離運転手で不在がち。母は、養育に熱心だが、ややおさえがきかない。妹は登校拒否傾向にあるが、本児には良きリーダーで、唯一の遊び相手でもある。

### (2) 諸検査等による実態

- ・知能検査ではIQ60（鈴木ビネー、個人検査）を示す。
- ・津守式乳幼児精神発達検査では、6歳程度の発達を示す。運動、探索、生活習慣等、経験不足のため得点が低い。また、買物や時刻など知的な面での発達に比べ、対人関係を中心とする社会性に劣っている。
- ・39頁性格診断プロフィール（母親が記入）から、個人的にも社会的にも、不安傾向が非常に強いことがわかる。



### (3) 行動特性

- ・慣れると明るく活発で、自主的な取り組みもするが、慣れないと、人との関わりがもてない。緊張が高じると、暴言をはいたり悪態をついたりする。
- ・服装にこだわりがあり、自分が落ち着ける服装以外は、学校指定の制服でも着用しない。

- ・活発に動くが、バランス感覚や調整力、筋力など未発達で、ぎこちない動きが多い。
- ・調理や工作など作る活動を好み、集中して取り組む。

## 2. 取り組みの構想

M子が集団の中でのびのびと行動する姿を目指し、以下の構想でアプローチしたいと考えた。

### (1) 指導仮説

これまで遊びや運動経験が不足している本児は、身体の諸機能が未発達で、身のこなしになめらかさが無い。そこでからだを力いっぱい使うことにより諸機能の分化を図り、からだ自体を作っていく。そうしたからだを使って新しい道具を使いこなす楽しさや、友だちと自然にふれあう楽しさを味わっていくことは、いろいろな活動への意欲を高め、自信をもつことにつながる。からだづくりが本児の情緒面の安定を図り、集団の中でのびのびと自分の力が発揮できだし、この事は、めざしている姿を実現することになる。

### (2) 指導方針

- ・楽しい経験を多くさせると共に、賞賛や配慮等で、できるだけ失敗体験を少なくする。
- ・受容的態度を基本にしながらかつ関わる相手や集団を少しずつ広げ、徐々に負荷を加えていく。
- ・一日の生活に見通しをもたせ、落ち着いた気分で生活させる。

## 3. 指導の実際（生活単元学習を中心として）

生活単元学習は学習内容の組み立てに幅があるため、個を生かしやすい指導形態である。以下、宿泊学習、野外炊飯、臨海学校の3つの単元をとり上げ、本児の取り組みの様子を述べてみたい。

### (1) 「宿泊学習」の実践

この単元は、クラスの友だちや先生と一緒に学校に泊まるという楽しい体験を通して、仲間意識を強めることを意図したものである。買物や調理、粘土細工、校外学習など本児の好む活動を多く取り入れ、期待をもって取り組ませるようにした。

#### ① 取り組みの様子

題 材	手 だ て	取 り 組 み の 様 子
オリエンテーション	実際にふとんに寝、空の湯舟に入ってみる。	「学校に泊まるだけか。Yちゃんも一緒か。先生も一緒に風呂に入るだけか」と矢継ぎ早に質問。こぼれそうな笑顔と歓声で、うれしさを表わす。
調理実習	賞賛して自信をもたせる。細かい指示を出さない。	メニューのトーストとサラダの材料を自分でアレンジし、オープンサンド風に仕上げ、担任に賞賛される。包丁を使うことに慣れている。
宿泊学習 買物 食事づくり 校外学習	口出しや手出しをせず、「さすが」とほめる。 次々と仕事を与え、充実感を与える。 M子の語りかけに応じ、楽しさを共感する。	スーパーでメモを見て上手に買う。メニューがよくわかっており、品物のさがし方が的確。Y子の買いまちがいに気づき、一緒に買いなおしをする。 指示されたことをどンドン片づけていく。「次は」と指示を求めることもある。Y子やK男の作業の遅れを気にし、手伝う。 Y子や担任に対し、おしゃべりの止め間がない。矯正靴で歩くK男が遅れるのを心配する。素直にのびのびと行動し、生き生きしている。

## ② 実践の結果

特に買物や調理などの活動を通して本児は、自分の力が生かされる満足感を味わい、自分にもできるという自信をもったように思う。また「1年生だけでまた泊まりたい」と繰り返し、楽しい体験が次の活動への意欲を高めていることをうかがわせた。さらに「Yちゃんは友だちだ」「Kちゃんは……」と、級友に対する親しみや、障害へのいたわりの気持ちを強めていっている。



### (2) 「野外炊飯」の実践

本児は調理の経験が豊富であるとはいえ、野外での経験はない。そこで得意とする調理や工作などの活動にダイナミックに取り組む楽しさや、新しいことを経験していく喜びを十分味わわせることを意図して、次のように実践した。

#### ① 取り組みの様子

題 材	手 だ て	取 り 組 み の 様 子
ミニ炊飯 (焼きそば)	励ましの声かけで見守る。 手を出さずじっくり待つ。	火をたく係になる。マッチのすり方がぎこちない。何度も挑戦して点火に成功する。「ブーと吹くものがある」と、火吹き竹の重宝さに気づく。
はしおきづくり	できばえのよい見本を提示し、作る意欲を持たせる。	夢中で紙粘土をこね、うさぎの形にする。色ぬりも慎重で、色のぬり分けを工夫する。完成すると、うれしそうに担任に見せる。
椅子づくり	のこぎりや金づちを使って作る楽しさを味わわせる。	1本の竹を節のところまで3つに切り分ける。切り落とすまでのこをひき続け、音をあげない。「すんだら家に持って帰る」と、たくさん作る。
野外炊飯	「さあ、やろうで」の声かけのみで、任せてしまう。	トラックからおろした道具を黙々と運ぶ。野菜の皮むき、かまどの火つけと次々取り組み、手を休めない。片づけまで休まず働く。口数が少ない。
炊飯の思い出	学習と一緒にふり返る。	「まだかきたい」といって、3枚の続き絵にした。

## ② 実践の結果

この単位では、のこぎりや金づち等のはじめての道具を使って物を作り、それを実際に生かして使うというダイナミックな活動を、十分に楽しんだ。また炊飯学習を繰り返すうちに「次は○○をしてもええか」「まだ○○をせんでもええか」と、自分からすすんで問いかけることが多くなり、学習に見通しや段どりをつける自信ができてきたことをうかがわせた。

### (3) 「臨海学校」の実践



この単位では集団の枠を広げ、合同で活動することが多かったが、宿泊学習や野外炊飯等で身につけた力を支えにして、のびのびと活動させたいと考えた。1、2年合同宿泊学習では、最初は見通しがもてず緊張したもの、外食や調理では2年生以上の力を発揮し、生き生きと活動した。臨海学校における海辺の活動や夜のつどい等でも、上級生との自然なふれ合いを十分楽しんでいる。「来年の臨海学校は、二泊したい」という感想に、満足感や次への意欲の高まりが強く感じられた。

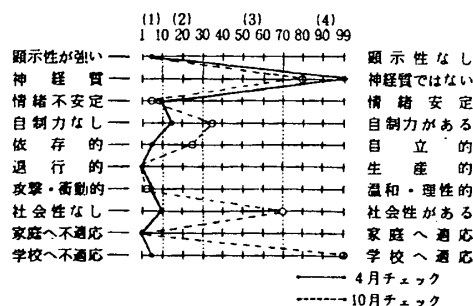
#### 4. 考察

M子は今では「明日もくるけ」「一日も休まん」と楽しんで登校し、学校でのいろいろな活動に生き生きと取り組むようになった。以下の観点によって、本児の変容の様子を確認してみたい。

##### (1) 諸検査の結果から

図2の性格診断検査プロフィールでは、全項目にわたって (図2) 性格診断検査プロフィール

パーセンタイル・プロフィールがプラスの方向に広がりを見せている。特に学校への適応と社会性の項目での変容が顕著である。また62頁に示す段階別教育内容段階到達度表からは、表現化の一部を除き全体的に良い方向に広がりを見せている中で、特に社会化と職業化の変容を大きくとらえることができる。



##### (2) 服装へのこだわりの緩和

	入学式	4/19	4/21	5/11	5/15	5/18	5/26	5/30
通学服	Tシャツ・毛糸のベスト・指定外のトレーニングズボン			カッターシャツ				スカート
体操服	指定外の靴。これで一日過す。	体育館用指定靴	上ばき用指定靴		トレーニングズボン	半袖体操服・トレウェア	ブルマ	

入学して2か月後に、指定の体操服と靴が着られるようになった。通学はまだトレーニングズボン着用のままで、スカートが学校の儀式の時のみ着用できた段階である。

〔表3〕指定服着用の経過

##### (3) 生活場面(関わる集団の広がり)での変容

1学期は学習や運動場面を通して、学級や中学部の集団との関わりを中心にして生活した。2学期には学級委員長となり、児童生徒会の代表委員としての活動が多く加わってきた。運動会やいもほり行事の実行委員会では、担任の援助を求めず、自分の力で意思表示をする場面がたくさんみられた。運動会では、小学部の男子の世話もしている。こうした事実から、集団の広がりと共に、少々の困難なら自分の力で切り抜けようとしたことがわかる。



#### 5. 今後の課題

今後もしっかりとやりや経験の拡大の場の保障に努め、自信をもつてのびのびと行動する子をめざしていきたい。配慮した集団の中ではのびのびと自分を発揮できるようになったとはいえなじまない集団の中では、やはり緊張が強い。自信の裏づけの一つとなる基礎学力の向上も図りながら、新しい場面に自分の力で適応できるたくましさ、身につけさせねばならない。